

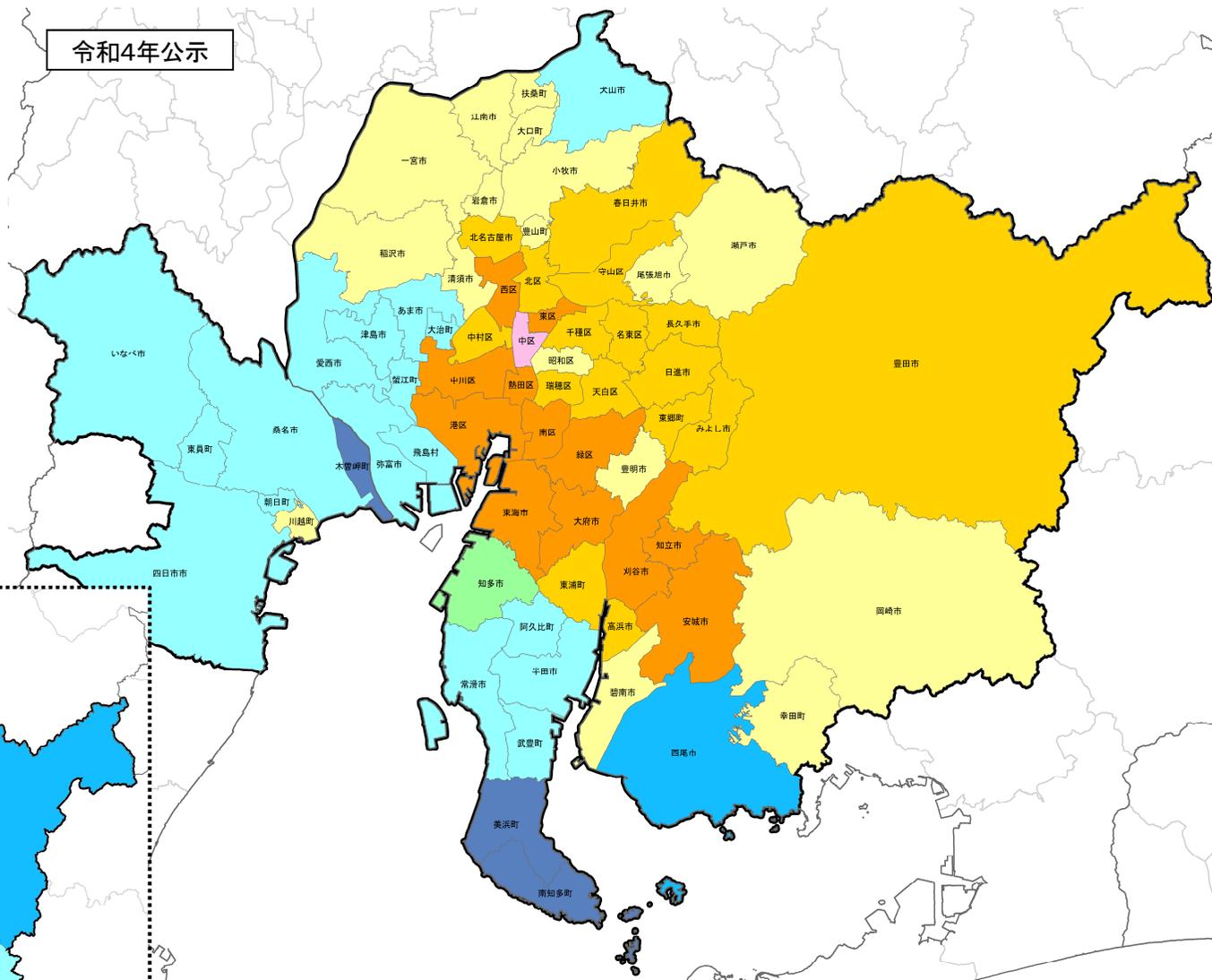
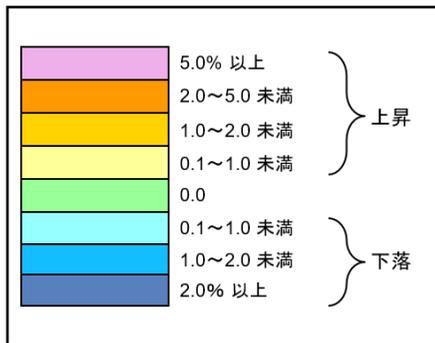
## 名古屋圏の住宅地

※（ ）は前年変動率

愛 知 県	<p>○ 名古屋市では、2.2%上昇(0.8%下落)。全 16 区のうち、3 区で上昇率が拡大。13 区で下落から上昇となった。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 特に市中心部の鉄道駅徒歩圏ではマンション用地需要が回復し、中区で 9.3%上昇(0.1%上昇)となった。</li><li>・ 東区の優良住宅地域では、従来から需要が底堅く、それ以外の地域も都心接近性に優れる等によりマンション用地の需要も旺盛で、東区で 4.7%上昇(0.1%下落)となった。</li></ul> <p>○ 西三河地域では、自動車産業の急速な業績回復によりエンドユーザーの住宅取得意欲は高く、下落から上昇に転じた市町が見られる。知多南部地域では、湾岸エリアを中心に下落が継続している。</p>
三 重 県	<p>○ 四日市市では、0.1%下落(0.4%下落)。利便性の高い市街地では上昇又は横ばいが増えた一方、臨海部では 2%前後の下落も見られる。</p> <p>○ 川越町では、名古屋市に近い立地で、道路整備による利便性の向上も見られ、下落から上昇に転じた。</p>

# 市区町村別の状況（名古屋圏・住宅地）

令和4年公示



令和3年公示

